



新年のご挨拶

日本複合材料学会会長 北條正樹
(京都大学大学院工学研究科教授)

皆様、あけましておめでとうございます。本年が会員の皆様やご家族にとって幸せ多い年となりますことを、心からお祈り申し上げます。また、皆様の本会に対するこれまでのご支援とご尽力に対して、深く感謝いたしますとともに、本年も引き続きのご支援をお願い申し上げます。今年は正月早々に Airbus A350XWB が定期路線に就航するとともに、春には VaRTM を一次構造物に初めて適用する三菱航空機の MRJ の初飛行が予定されております。複合材料にとっても、さらなる飛躍の年になることを祈念しております。

昨年は本会におきましても極めて大きな節目の年となりました。9月1日に一般社団法人日本複合材料学会が設立されました。3月末日までは任意団体日本複合材料学会も存続し、行事などの活動は任意団体として行います。昨年5月の総会で制定いたしました新しい定款に基づき、細則、規程、内規を理事会にて順次制定作業中です。この法人化の業務につきましては、ご担当いただきました浜本章副会長、青木隆平理事、事務局吉田裕美様、理事会内で会長、法人化担当副会長・理事、庶務理事、会計理事により組織いたしました運営委員会、理事会をはじめ、皆様には大変お世話になりました。ほぼ順調に作業が進んでおりますのも、会員諸兄のご理解とご支援の賜物と深く感謝しております。

昨年は8月に Boeing 787-9 (胴体延長型) が世界で初めて国内線に就航、開発中の Boeing 777X の複合材主翼に東レ製の材料の採用が決定するなど、航空関係で引き続き明るい話題が続きました。地上交通の分野では、鉄道用台車フレームを CFRP 製としてサスペンション機能を持たせた efWING が川崎重工により開発され3月から熊本電鉄において営業運転に入り、軽量化だけでなく脱線に対する安全性を大幅に向上するなど、新幹線 50 年の節目の年に将来の鉄道史に残る技術開発がなされました。これらの基礎となる研究開発においても、既存の大型プロジェクトに加え、NEDO の革新的新構造材料等研究開発、内閣府の戦略的イノベーション創造プログラムなど、自動車や航空機用構造材料としての複合材料の基盤の分野を対象として大きな国家プロジェクトがスタートし、次世代に向けた極めて重要な研究が実施されております。

本会の活動では、昨年3月に第5回日本複合材料会議 (JCCM) が京都で開催され、367名の参加者、176件の講演といずれも多数でした。9月初めにカリフォルニア大学サンディエゴ校にて開催された第16回日米複合材料会議は、米国複合材料学会第29回年次会議および ASTM-D30 委員会の諸行事と共催で開催され、約300件の発表があるとともに、日本から約50件の先進的な発表があり、日本の存在感を示すことができました。翌週には秋田で第39回複合材料シンポジウムが開催され、こちらも200名を超す参加者を得て盛況でした。10月には中国重慶大学にて第11回日中複合材料交流会が開催され、日本から若手を中心に30名近くの参加を得ました。これらの開催に当たり、JCCM 実行委員長の日下貴之先生、担当理事の小笠原俊夫様、国際交流委員長の河井昌道先生、行事委員長の木村照夫先生、複合材料シンポジウム実行委員長の渋谷嗣先生、日中事務局の邱建輝先生、倪慶清先生、組織委員長で重慶大学

に異動された胡寧先生をはじめ、各実行委員の皆様大変お世話になりました。深くお礼を申し上げます。欧文誌 ACM につきましては、昨年度より会員の方すべてが創刊号よりオンラインジャーナルにて掲載内容を閲覧できるようになりました。荻原慎二前欧文誌編集委員長、小笠原俊夫現委員長、ACM の国際出版化の担当理事であった青木隆平先生には、契約の細部までご検討いただきました。欧文誌は本会の国際的位置づけを確固たるものにする極めて重要な情報発信媒体です。今回の改定は必ずや将来の国会および会員諸兄の研究基盤強化に寄与すると期待しております。

今年もまもなく3月に実質的には東京で2回目の開催となる第6回日本複合材料会議が開催されます。7月にはデンマーク・コペンハーゲンで第20回国際複合材料会議 (ICCM) が開催されます。9月には金沢にて第40回複合材料シンポジウムが開催されます。また、日欧の交流に関しても、第14回日欧複合材料会議が本会が主催する初めての会議として金沢での開催の準備を進めております。さらに、韓国側で第10回日韓複合材料ワークショップが開催予定です。来年夏には第17回日米複合材料会議を札幌にお迎えすることになりました。会員の皆様におかれましては、これらに積極的に参加していただき研究の切磋琢磨をお願いしたいと存じます。

本会は40周年の記念すべき年を法人化の実質的な1年目として迎えることとなります。研究は常に創造に対するチャレンジと失敗の積み重ねです。中堅の皆様には、本会創設期の諸先輩の初心に立ち返り更なる発展をお願いするとともに、本会としては今世紀半ばの活躍を目指して次世代の研究者・技術者の育成に努めたいと考えております。皆様の温かいご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

皆様の本会の活動に基づいた益々のご活躍を祈念して、新年のご挨拶の結びとさせていただきますと思います。